

自然災害情報室における東日本大震災関連資料の収集と公開

鈴木比奈子*・内山庄一郎*・堀田弥生*・根岸弘明*

Acquisition and Publication of Materials and Information on The 2011 Great East Japan Earthquake Disaster in Disaster Information Laboratory, NIED

Hinako SUZUKI, Shoichiro UCHIYAMA, Yayoi HOTTA, and Hiroaki NEGISHI

**Disaster Information Laboratory,
Outreach and International Research Promotion Center,
National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention, Japan
hinasuzuki@bosai.go.jp, uchiyama@bosai.go.jp, yhotta@bosai.go.jp, negishi@bosai.go.jp*

Abstract

The acquisition and publication of a variety of materials and information about natural disasters are one of the major operations of Disaster Information Laboratory (DIL), National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention (NIED). Now DIL are gathering various kinds of materials about the huge earthquake and the devastated damages caused by the earthquake (The 2011 Great East Japan Earthquake Disaster). In this manuscript, the acquisition status of local newspapers that have published at the disaster areas, historical documents and materials about the past earthquake and tsunami disasters in the areas, and the summary of coastal damage survey done by our team. The disclosures of various information including things mentioned above through the Internet are also introduced.

Key words : The 2011 Great East Japan Earthquake Disaster, Materials of disaster records, Local newspaper, Historical disaster documents, Publication via the Internet

1. はじめに

2011年3月11日、東北地方から関東地方の太平洋沖を震源域とするMw 9.0の東北地方太平洋沖地震が発生した。これは、日本での観測史上最大の地震であり、この地震による強い地震動および津波により、過去に類を見ない、多様で甚大な被害が発生した。特に東北から関東東部の広い範囲の太平洋沿岸は巨大な津波に襲われ、多くの尊い命と財産を失うこととなったほか、福島県太平洋沿岸の原子力発電所に致命的な被害をもたらした。この巨大地震は、液状化による地盤災害や斜面災害、インフラの断絶、ガソリンや水・食料の慢性的な不足といった都市部での生活環境への影響など、直接的・間接的に社会におよぼす影響の大きさをまざまざと見せつけるものとなった。なお、東北地方太平洋沖地震によりもたらされた災害は、2011年4月1日の内閣持ち回り閣議により「東日本大震災」と呼称することが決定されている。

今回の地震が発生した東北地方太平洋沖では、歴史的

に繰り返し巨大地震が発生している。この地域は、日本海溝において太平洋プレートが北米プレートの下に沈み込み、典型的な海溝型地震が繰り返し発生する場所である(岡田, 2011)。自然災害に関する研究、特に発生予測に関する研究について考えた場合、研究手法には主に二つのアプローチがある。1つは、地震の発生メカニズムを科学的に解明することにより演繹的に進めるアプローチ、もう1つはさまざまな観測データなどから統計的・帰納的に求めるアプローチである。発生間隔が短く、一定の観測環境で統計的に有意なデータが観測できる対象であれば、統計的な手法による自然現象の解明が有用であるため、気象現象などは、統計的・帰納的な手法と物理法則に沿った理論・数値解析による演繹的手法を活用して予測研究を行っている。

一方、地震の場合、特に規模の大きいものは現象の発生周期が数十年から千年オーダーと長く、現在の観測システムでは統計的に発生の予測、分析が出来るほどのデー

* 独立行政法人 防災科学技術研究所 自然災害情報室

タを取得することは困難である。したがって、人文的な過去の文献や資料の調査、あるいは過去の災害の履歴ともいえる地形や地質の調査といったものが、帰納的アプローチのために必須となる。また、自然現象によりもたらされる災害は、そのときの社会の状況に応じた新しい様相の被害が認められる一方、過去の被害を振り返ると極めて似た被害状況が示されていることも多い。以前から、過去の災害を記録し後世に伝えることが、地域社会の災害に対する耐性を高めるという考え方があった(寺田, 1948)。今回の震災においても、過去の事例や教訓を基に命が助かった例は少なくない。このように、今回のような甚大な地震災害に際し、関係する資料を収集すること、過去の同様な地震災害に関する資料を分析すること、そしてそれら資料を保管し後世に残すことは、今後発生する自然災害に地域社会が対処していくうえで重要な意味を持つ。

2. 自然災害情報室による資料収集活動

防災科学技術研究所(防災科研)自然災害情報室は1963年に開設され、災害および防災科学技術に関する国内外の情報および資料の収集、整理、保管および提供を行うことを業務としている。図書や雑誌のような製本資料の他、台風や地すべり、洪水などさまざまな災害に関する空中写真・フィルムや、各種ハザードマップ、地域防災計画、各種地図資料、古書や古文書資料といった多種多様な資料の収集と研究所内外への公開を行っており、国内有数の自然災害および防災に関する専門図書館としての機能を有している^{注1}(図1)。特に被害の大きかった災害については、集中的に資料収集と公開を行っており、1947年カスリーン台風、1959年伊勢湾台風、1960年チリ地震津波については、災害写真や各種の報告書など多様な資料を収集し一般公開するとともに、ウェブサイトでも資料情報を公開している。2011年10月現在、これまでに収集した資料のうち、新聞資料や古書等の一部については自然災害情報室の閲覧コーナーで展示しており、自由に閲覧することができる(図2)。また、防災科研では、地震から約1か月後の4月17日に「緊急報告会—東日本大震災への対応—」として地震のメカニズムや震災の概要、当研究所の対応について講演会を開催した。当日は自然災害情報室でも新聞をはじめとした収集資料の一部を公開し、一般参加者を含め多くの方に関心を持っていただくことができた(図3)。



図1 自然災害情報室の閲覧コーナー
Fig. 1 Reference corner of Disaster Information Laboratory, NIED.



図2 収集した新聞資料の展示
Fig. 2 Display the collected newspapers.



図3 緊急報告会(4月17日)での地方紙等資料公開の様子
Fig. 3 Display the local newspapers at the Seminar on April 17.

注1: 自然災害情報室(029-863-7635, 開室時間 平日9:30-17:00)

表1 自然災害情報室で収集した新聞一覧

Table 1 List of newspapers collected in Disaster Information Laboratory, NIED.

発行地域	新聞名	収集期間	発行地域	新聞名	収集期間
青森県	東奥日報	2011.03.11 ~ 2011.09.30	全国	朝日新聞(東京版)	2011.03.11 ~ 2011.05.31
	陸奥新報	2011.03.12 ~ 2011.09.30		朝日新聞(茨城版)	2011.03.11 ~ 継続中
	デーリー東北	2011.03.12 ~ 2011.09.30		毎日新聞(東京版)	2011.03.11 ~ 2011.05.31
岩手県	岩手日報	2011.03.11 ~ 継続中		毎日新聞(茨城版)	2011.03.11 ~ 継続中
	岩手日日	2011.03.12 ~ 継続中		読売新聞(東京版)	2011.03.11 ~ 2011.05.31
	胆江日日新聞	2011.03.11 ~ 2011.04.11		読売新聞(茨城版)	2011.03.11 ~ 継続中
	復興釜石新聞	2011.06.11 ~ 継続中		日本経済新聞(東京版)	2011.03.11 ~ 2011.05.31
宮城県	河北新報	2011.03.11 ~ 継続中		日本経済新聞(茨城版)	2011.03.11 ~ 継続中
	石巻かほく	2011.03.14 ~ 継続中 (12, 13日休刊)		産経新聞(東京版)	2011.03.11 ~ 2011.05.31
福島県	福島民報	2011.03.11 ~ 2011.09.30		Japan Times	2011.03.11 ~ 2011.03.31
	福島民友	2011.03.12 ~ 継続中			
	夕刊いわき民報	2011.03.12 ~ 2011.09.30 (16~21日休刊)			
茨城県	茨城新聞	2011.03.11 ~ 継続中			
	常陽新聞	2011.03.12 ~ 2011.09.30			
東京都	東京新聞	2011.03.11 ~ 2011.03.18			

3. 東日本大震災の収集資料について

自然災害情報室では、東北地方太平洋沖地震の発生を受けて、災害の概要と被災状況の把握、そして地震発生直後から現在に至るまでの復旧・復興の過程が記述されている資料として、新聞(全国紙および東北地方から北関東の太平洋側を対象として発行されている地方紙)、雑誌(週刊誌など)やその他刊行物を対象とした資料収集を行っている。これと並行し、過去の地震・津波被害に関する資料として、古書・絵図等の追加収集も進めている。現在(2011年10月)までに収集した資料を付録1に示す。このほか、東北および関東東部の太平洋沿岸地域において、津波、地盤液状化、斜面変動の被害状況について現地調査を実施した。以下に各実施内容の詳細について示す。

3.1 新聞資料

地方紙(地方新聞)は、各地域の生活や社会に根ざし、ニュース性の高い情報の媒体として、県や地域を対象として発行される新聞である。地方紙では発行地域特有の情報や社会傾向を強く反映した紙面作りがなされることが多い。今回のような甚大な災害では、地域に特化した情報が含まれるとともに、発行頻度が基本的に日刊で、リアルタイム性も高い。つまり、災害情報として地方紙を捉えた場合、以下のような特徴が挙げられる。

- ・膨大な情報から一定の方針で選別されている
- ・震災直後から継続して発信されている
- ・地元密着の情報が含まれている
- ・リアルタイム性が高く、事象の変化を追跡できる

これらのことから地方紙を継続して収集することによって優れた資料価値が生じる。注意すべき点として、

新聞社の商業的立場等に起因する恣意的な記事の取捨選択や表現が存在する可能性があるが、広域かつ網羅的に収集することにより、これらの利点を大きく損なうものではないと考える。

以上を踏まえ、自然災害情報室では東日本大震災発生直後から、被災地域の地方紙の収集を実施した。対象としたのは青森、岩手、宮城、福島、茨城、東京の各都県で発行されている複数の新聞である。なお、震災発生直後から5月末までの約3か月間は、主要全国紙の東京版についても収集を実施した。

地方紙の収集プロセスは次のように行った。一般的には新聞の購入は各新聞社およびその販売店から直接行うが、今回のように広域かつ複数の地方紙を購入する場合、地方紙・地域新聞・業界紙などを広く取り扱う代理店^{注2}に申し込むことで入手することができる。この方法では少し割高になるものの、被災地にある新聞社や現地物流の負担増加への懸念と、1つの窓口で複数の地方紙を購入できる合理性から、代理店経由での購入を行った。これが不可能なものについては、個別に申し込む方法を採用した。

収集した新聞名および収集期間を表1に示す。東日本大震災では、その被害の甚大さから、通常一過性で終わるような災害報道が半年以上経過した現在(2011年10月)でも継続され、被害の甚大な被災地では復旧や被災者支援に関する情報を発信し続けている。このことから、地方新聞の災害情報としての価値は継続していると判断し、一部の地方紙については現在も収集を継続中である。

注2：株式会社全販(<http://www.zempan-group.co.jp/>)

被災地の地方紙、特に新聞社の社屋が直接被害を受けたところでは、新聞発行そのものが困難になり、非常時の協定により刊行工程の一部を他社に依頼するなど、一時的に別の手法で新聞発行や情報発信に努力したところが少なくない。宮城県石巻市の「石巻日日新聞」では、3月12日から17日にかけて通常の新新聞発行ができなかったが、手書きで壁新聞を張り出し、被災者に必要な情報を提供し続けた（石巻日日新聞社、2011）。この壁新聞は国立国会図書館によりデジタル化され、インターネット上で公開されている（国立国会図書館、2011）。また、宮城県気仙沼市の気仙沼小学校避難所では、小中学生が3月18日から手作り壁新聞「ファイト新聞」（ファイト新聞社、2011）の発行を開始し、7月の50号まで刊行を続けた。両者の目的は異なるが、被災状況下でも発行する姿勢に賛同が集まり話題となった。

その他、宮城県の「石巻かほく」は、地震直後の3月12、13日は臨時休刊したものの、14日以降は両面1枚刷りで刊行を再開している。同じく3月12日に、茨城県の「常陽新聞」は通常サイズではなくA3用紙の両面刷りで、青森県の「陸奥新報」ではB4片面の1枚刷りで刊行を行っている。岩手県の「岩手東海新聞」は震災を受け休刊となったが、釜石市の災害対策本部情報誌「復興釜石新聞（週2回刊行）」として6月11日から再出発を果たしている（菊地、2011）。なお、釜石市では現時点（2011年10月）で郵便配達事業が復旧していないため、防災科研では宅配

便により入手している。

3.2 過去の地震・津波災害資料

東北地方太平洋沖地震による被害は、三陸地方を中心とした太平洋沿岸域での津波被害が大きな特徴であった。三陸沿岸は歴史的にも繰り返し津波被害に遭遇しており、常にその発生が危惧されてきた。この地域の過去の津波災害の一覧を表2に示す（宇佐美、2003）。その中でも近代以降、同地域に深刻な津波被害を与えた災害として、明治三陸津波（1896年6月15日；M=8 1/4）が挙げられる。明治三陸津波で被災した地域の一部では、住宅の高地移転や津波碑の設置などの対策が取られており、今回の地震においても人的被害を免れた地域がある。

このように過去の津波被害の状況を知ることは、今回の震災の理解を深めるだけでなく、将来起こりうる災害を考える上でも重要な役割を果たす。そこで、自然災害情報室では所蔵する資料から今回の地震に関連する資料を抽出し分析した。また、過去の災害に関する新規資料の収集を行っている。

表3に自然災害情報室の所蔵する歴史災害資料の中で、三陸地方の津波災害に関連する資料の一覧を示す。この中から、いくつかの津波災害に関する詳細を紹介する。

(1) 貞観地震津波(869年)

「日本三代實録」は平安時代に編纂された歴史書で、六国史の一編である。その中の巻十六に貞観十一年五月二十六日（ユリウス暦869年7月9日）に東北地方で大規

表2 三陸地方の歴史津波災害一覧

Table 2 List of historical tsunami disasters in Sanriku region.

西 暦	和 暦	災害名	発生時刻	震 源	経 度	緯 度	規 模	備 考
869年7月13日	貞観11年5月26日	貞観地震津波	夜	三陸沖	143.8°E	38.5°N	M8.3	
1611年12月2日	慶長16年10月28日	慶長三陸地震津波	10:00以降	三陸沖	144.4°E	39.0°N	M8.1	昭和に類似
1677年4月13日	延宝5年3月12日	延宝5年の津波	20:00頃	青森県東方沖	142.25°E	41.0°N	M7.2-7.5	仙台、青森被害なし
1793年2月17日	寛政5年1月7日	寛政5年の津波	12:00頃	三陸沖	144.5°E	38.5°N	M8.0-8.4	余震が多発、明治に類似か
1856年8月23日	安政3年7月23日	安政3年の津波	昼	青森県東方沖	142.5°E	41.0°N	M7.5	地震前の19日から有感地震が多発
1896年6月15日	明治29年5月5日	明治三陸地震津波	19:32	三陸沖	144°E	39.5°N	M8 1/4	死亡約2,000人
1933年3月3日	昭和8年3月3日	昭和三陸地震津波	2:31	三陸沖	144°31'E	39°14'N	M8.1	死亡約3,300人
1960年5月24日	昭和35年5月24日	チリ地震津波	2:50	チリ海溝	73.5°W	41°S	Mw9.5	遠地津波、地震発生時刻；1960年5月22日19:11 (GMT)
2011年3月11日	平成23年3月11日	東日本大震災	14:46	三陸沖	142°51'36"E	38°6'12"N	Mw9.0	

※ 歴史災害の震源、規模については宇佐美（2003）による。

模な地震と津波が発生したことが記載されている。また、発光現象が発生したという記述や、津波が城の下まで押し寄せたという被害の状況に関する記述がある。

「貞観十一年陸奥府城の震動洪溢」(吉田, 1897) は、貞観地震津波に着目した初めての論文として知られ、日本三代實録の本文中に出現する地名や建造物の当該箇所との同定、発光現象の原因究明や記述の誤字脱字を解説し、869年貞観地震津波がどのような災害であったのかを述べている。なお、「【資料紹介】吉田東伍著「貞観十一年 陸奥府

城の震動洪溢」(阿賀野市立吉田東伍記念博物館, 2011) は、吉田(1897)の本文復刻と解題である。

また2006年以降、仙台平野の津波堆積物調査やそれに基づく数値シミュレーションにより、貞観地震津波による被害の範囲などの研究がなされており(澤井ほか, 2006; 宍倉ほか, 2007; 佐竹ほか, 2008; 宍倉ほか, 2010)、最新の研究による歴史資料の検証や過去の地震被害そのものの姿を明らかにする試みが進められている。

表3 三陸地方の歴史災害に関する収集資料一覧

Table 3 List of historical materials/documents on past disaster in Sanriku region collected by Disaster Information Laboratory, NIED.

	文献名	発行年	収録巻	筆者(編者)	関係災害
1	日本三代實録(文書データ)	901	巻第十六	藤原時平, 菅原道真, 大蔵善行, 三統理平	869 貞観
2	貞観十一年陸奥府城の震動洪溢(複製)	1897	歴史地理 8 : 1033-1040	吉田東伍	869 貞観
3	【資料紹介】吉田東伍著「貞観十一年 陸奥府城の震動洪溢」	2011	阿賀野市立吉田東伍記念博物館 研究概報	阿賀野市立吉田東伍記念博物館	869 貞観
4	津波災害は繰り返す(複製)	2001	東北大学広報誌まなびの杜 16 : 特集	箕浦幸治	869 貞観
5	仙台平野の堆積物に記録された歴史時代の巨大津波-1611年慶長津波と869年貞観津波の浸水域-	2006	地質ニュース 624 : 36-41	澤井祐紀, 岡村行信, 宍倉正展, 松浦旅人, Than Tin Aung, 小松原淳子, 藤井雄士郎	869 貞観 1611 慶長
6	石巻平野における津波堆積物の分布と年代	2007	活断層・古地震研究報告 7 : 31-46	宍倉正展, 澤井祐紀, 岡村行信, 小松原純子, Than Tin Aung, 石山達也, 藤原治, 藤野滋弘	869 貞観 1611 慶長 ほか
7	石巻・仙台平野における869年貞観津波の数値シミュレーション	2008	活断層・古地震研究報告 8 : 71-89	佐竹健治, 行谷祐一, 山木滋	869 貞観
8	平安の人々が見た巨大津波を再現する-西暦869年貞観津波-	2010	AFERCNEWS16 : 1-10	宍倉正展, 澤井祐紀, 行谷祐一, 岡村行信	869 貞観
9	青森県海嘯災害画報 全七枚	1896		對馬豊憲	1896 明治
10	三陸地方地震津波ニ付キ地質学上ノ考説	1896	東京地学協会	巨智部忠承	1896 明治
11	宮城縣海嘯誌	1903		宮城県	1896 明治
12	1896 明治三陸地震津波報告書	2005		中央防災会議 災害教訓の継承に関する専門調査会	1896 明治
13	宮城縣昭和震嘯誌	1933		宮城県	1933 昭和
14	チリ地震津波調査報告書-海岸地形とチリ地震津波-	1961	国土地理院技術資料 D1-8	国土地理院	1960 チリ
15	塩釜港周辺津波地形分類図	1961	国土地理院技術資料 D1-8 (付図)	国土地理院	1960 チリ
16	気仙沼津波状況図	1961	国土地理院技術資料 D1-8 (付図)	国土地理院	1960 チリ
17	気仙沼地形分類図	1961	国土地理院技術資料 D1-8 (付図)	国土地理院	1960 チリ
18	志津川津波状況図	1961	国土地理院技術資料 D1-8 (付図)	国土地理院	1960 チリ
19	志津川地形分類図	1961	国土地理院技術資料 D1-8 (付図)	国土地理院	1960 チリ
20	1960 チリ地震津波報告書	2010		中央防災会議 災害教訓の継承に関する専門調査会	1960 チリ
21	日本被害津波総覧	1985		渡辺偉夫	
22	最新版 日本被害地震総覧[416]-2001	2003		宇佐美龍夫	

(2) 明治三陸地震津波(1896年)

「青森県海嘯災害畫報」(對馬, 1896)は, 1896年明治三陸地震発生からおよそ2か月後の1896年8月5日に発行されたかわら版である(図4)。現在の青森県三沢市や八戸市に位置する集落の津波後の様子を描いている。かわら版には, がれきや家財道具が散乱し家屋の屋根部分だけが取り残されている様子や, 家屋ごと別の場所に流された様子, 警察官が立会いの下, がれきの下敷きになった遺体を回収, 埋葬する様子が描かれている。また, 遺体の身元と発見された場所がかわら版に記載されており, 被災地での捜索の様子や人的被害の状況など, 当時の状況を伺い知ることができる。この資料は7枚の絵図で構成されており, 視覚的に地震の様子を把握することができる。本資料をウェブサイトに掲載したところ, データ提供の依頼があった。



図4 青森県海嘯災害畫報(對馬, 1896)
Fig. 4 Pictorials of tsunami disaster on Aomori prefecture (Tsushima, 1896).

「三陸地方地震津波ニ附キ地質學上ノ考説」(巨智部, 1896)は, 地震から1か月後の1896年7月10日に発行された地学雑誌8集91巻の附録である(図5)。巨智部(こちべ)は当時の地質調査技師で, 論文は気象台のデータに基づく余震数, 津波が襲来した時の状況や三陸地方以外の津波の襲来状況を記述しているほか, 当時8種類ほど提案されていた津波原因の仮説を地質学的見地に基づいて論証し, その結果海底の断層運動によるものであると結論付けている。

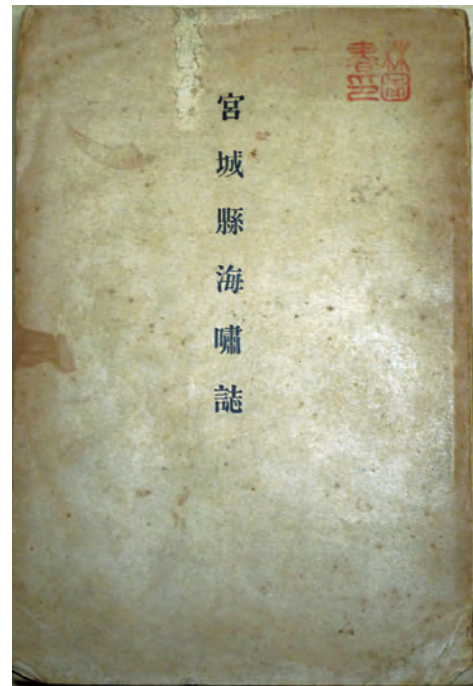


図6 宮城縣海嘯誌(宮城県, 1903)
Fig. 6 Tsunami of Miyagi prefecture (Miyagi pref., 1903).

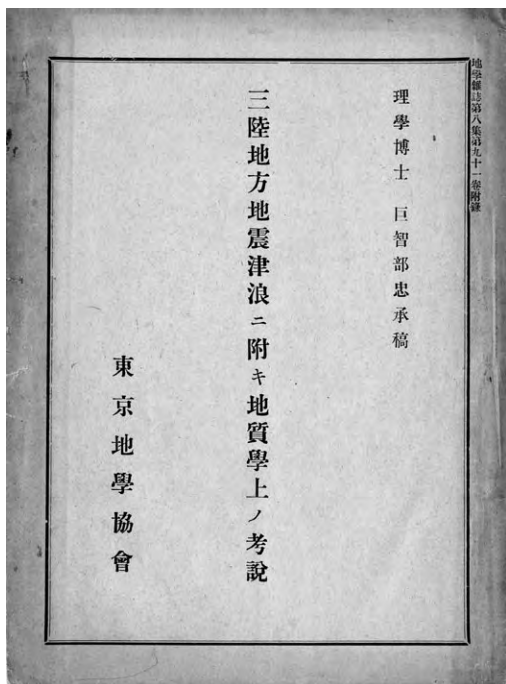


図5 三陸地方地震津波ニ附キ地質學上ノ考説(巨智部, 1896)
Fig. 5 Geological study of earthquake and tsunami on Sanriku region (Kochibe, 1896).



図7 宮城縣昭和震嘯誌(宮城県, 1933)
Fig. 7 Showa Earthquake and Tsunami of Miyagi prefecture (Miyagi pref., 1933).

「宮城縣海嘯誌」(宮城県, 1903)は, 1896年明治三陸津波の宮城県内のデータをまとめたものであり, 1903年に宮城県より発行されたものである(図6)。過去の歴史災害, 陸軍陸地測量部(現・国土交通省)の検潮記録, 各集落の被災記録, 移転記録, 救済金記録や被災範囲地図などが詳細に記載されている。なお1933年昭和三陸津波時には, この文献の構成を踏襲した「宮城縣昭和震嘯誌」(宮城県, 1933)が刊行されている(図7)。宮城縣昭和震嘯誌では津波被害にあった地域の写真が収められており, 当時の災害の状況を視覚的に把握できる。

(3) チリ地震津波(1960年)

「チリ地震津波調査報告書-海岸地形とチリ地震津波-」(国土地理院, 1961)は, 国土地理院によって刊行されたチリ地震津波の報告書である。本書では高地移転に関する章が設けられ, 明治三陸地震津波と昭和三陸地震津波の津波浸水域とチリ地震津波の浸水域の比較, 高地移転の成果に関する考察が示されている。本書の付図には塩釜港周辺津波地形分類図(図8), 気仙沼津波状況図, 気仙沼地形分類図, 志津川津波状況図, 志津川地形分類図がある。チリ地震津波については多数の津波襲来時の写真が残されており, 本書にも収録されている。本書中の高地移転の記述を抜粋し地震直後にウェブサイトに掲載したところ, 省庁等の外部機関からの問い合わせが増加した。

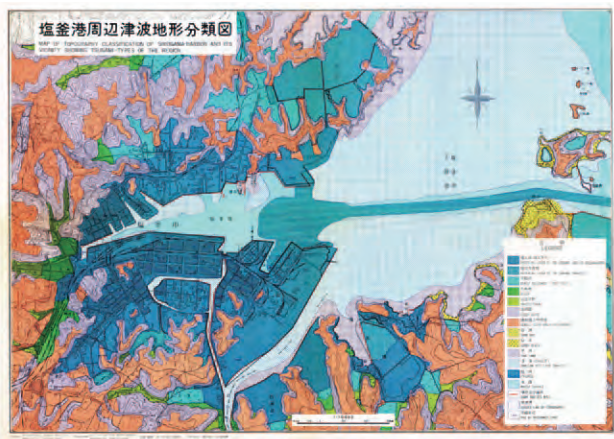


図8 塩釜港周辺津波地形分類図(国土地理院, 1961)
Fig. 8 Map of topography classification of Shioyama - harbor and its vicinity showing tsunami - types the region (GSI, 1961).

今回の地震発生直後, 同地域の過去の地震や津波被害の概要の把握には, 「日本被害津波総覧」(渡辺, 1998)および「最新版 日本被害地震総覧」(宇佐美, 2003)が有効であった。これらの総覧が参照している文献は多岐にわたり, 本文中のデータの数値などから, 前項で紹介した「宮城縣震嘯誌」なども使用されていることがわかる。地域の過去の自然災害の概要を把握するうえで総覧形式になっている資料は有効であった。また, 「青森県海嘯災害畫報」は過去の災害の様子を視覚的に把握するうえで効果的であり, 絵図のコメントとして記述されている場所から今回の地震との被災範囲の違いを把握することができた。このような総覧形式の資料と各災害の詳細な資料とを同時

に活用することで, 過去の津波災害の分析と災害概要や関連資料に関する情報提供を効率的に進めることができた。

3.3 現地調査による資料収集

これまで述べたように, 過去の災害に関する記録や資料を参照することで, 現在の災害や将来起こりうる災害の理解や対策に資することは事実である。自然災害情報室では, 現在の災害の状況および復旧・復興過程を含めた被災地の状況を, 継続的に記録した資料として残すため現地調査を実施した。

2011年4月から数回に分けて, 千葉県, 茨城県から青森県八戸市までの東北地方の太平洋岸地域において被災状況の概要を調査した。実施スケジュールは以下の通りである。

- 2011年4月7日-8日: 水戸市内の斜面変動と茨城県南沿岸部の地盤災害調査
- 2011年4月14日-18日: 東北太平洋沿岸方面調査および2011年4月11日福島県直下型地震(2011年4月11日17:16(M7.0)福島県浜通りの地震)による地表地震断層調査
- 2011年7月21日: 千葉県液状化被害調査



図9 現地調査のルートおよび写真の撮影位置(概略ルートを赤線で記載)。各記号は付録2の各写真の撮影地点を示す。

Fig. 9 Map showing the route of site investigation and positions of photo shooting (The investigation route is indicated as red lines.). Each character on this map corresponds to the position of photo shown in Appendix 2.

調査ルートを図9に示す。調査は、地震被害、土砂災害、津波被害、液状化現象による地盤変動の被害および社会的影響の広域的な現状把握を目的として行った。調査にはレンタカーを使用し、震災直後のガソリン不足が懸念されたため、ガソリン携行缶(20リットル)を携行した。また、沿岸地域の調査のため、ラジオ放送を通して余震による津波には常時警戒した。調査計画時は震災から1か月経過しており、津波による大規模被害地域以外では都市部の一部のホテルが利用可能であったが、岩手県の三陸海岸沿岸部では被害が大きく宿泊地の確保が困難であったため、内陸の盛岡市を拠点とした。調査中は撮影と情報収集に集中するためGPS付カメラを利用し、撮影地のマッピングは後日実施した。各地の被害状況写真は付録2を参照されたい。

今後は被災地において定点を定め、復旧・復興過程を含めた記録を定期的実施することで、中・長期的な本震災による社会の変化を捉える予定である。

4. 各資料のオンライン公開

4.1 ウェブコンテンツによる災害資料の公開

現在、所蔵する資料(写真や主題図、文献、動画など)の中で、以下の災害に関する特集ページを公開している(図10)。

- 昭和35年チリ地震津波50周年特別企画展(2010年公開)
http://dil.bosai.go.jp/disaster/1960chile/
- 伊勢湾台風50周年特別企画展(2008年公開)
http://dil.bosai.go.jp/disaster/1959isewan/
- カスリーン台風60年企画展(2007年公開)
http://dil.bosai.go.jp/disaster/1947kathleen/
- ハリケーンカトリーナ災害調査速報(2005年公開)
http://dil.bosai.go.jp/disaster/2005katrina/

また、自然災害や防災に関する基礎的事項を「防災基礎講座」(執筆:水谷武司客員研究員)として公開している。この中の「防災基礎講座:災害事例編」では、過去の国内外の災害事例を詳細に解説している。

- 防災基礎講座:災害事例編(2008年公開)
http://dil.bosai.go.jp/workshop/02kouza_jirei/firstpage/

これらに加え、東北地方太平洋沖地震発生直後の2011年3月17日に「2011年3月11日東北地方太平洋沖地震特設サイト」を開設し、所蔵する三陸地方の地震津波資料の公開と、震災の概要に関する情報発信を行っている(図11)。特設サイトの主なコンテンツは、地震概説、調査報告、東日本太平洋沿岸における津波災害、過去の地震・津波災害、地震関連情報の5つからなる。コンテンツの詳細については付録3を参照されたい。また、第3.2章で紹介した明治三陸地震津波資料【青森県海嘯災害害報】、明治三陸津波資料【三陸地方地震津波二附キ地質学上ノ考説(巨智部忠承)】やチリ地震津波資料【チリ地震津波調査報告書-海岸地形とチリ地震津波-(国土院)】を公開している。特にチリ地震津波調査報告書は当初「第15章高地移転」のみを抜粋公開していたが、問い合わせが相次いだため、承諾を得たうえで全文をオンライン公開すること



図10 自然災害情報室ウェブサイト (http://dil.bosai.go.jp/)
 Fig. 10 Website of Disaster Information Laboratory.
 (http://dil.bosai.go.jp/).



図11 東北地方太平洋沖地震に関する特設サイト (http://dil.bosai.go.jp/disaster/2011eq311/)
 Fig. 11 Special site on The 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake. (http://dil.bosai.go.jp/disaster/2011eq311/).

となった。また、防災科研地すべり変動研究チームと合同で実施した以下の現地調査速報を PDF で公開している。

- ・ 水戸市内の斜面変動と茨城県南沿岸部の地盤災害調査
- ・ 2011 年 4 月 11 日福島県直下型地震による地表地震断層調査(速報)
- ・ 2011 年 4 月 11 日福島県直下型地震による土砂災害調査(速報)

4.2 その他の情報配信

震災発生直後から 11 日間の自治体の Web による震災情報配信の状況を調査し、時系列で可視化した Web-GIS コンテンツを製作した (<http://landslide.bosai.go.jp/eq2011/>)。「震災情報の発信状況 (時系列)」と題したこのコンテンツでは、東北地方と周辺部の 276 自治体のウェブサイト

11 日間継続で調査し、各自治体の情報発信の状況を 5 種類に分類した結果を時系列で閲覧できる。このコンテンツでは、津波によってサーバが被災し情報発信ができない地域や代理サーバ等で情報発信を行っている地域、被害の大きな地域や大都市ほど震災関連情報の発信開始までの時間がより早い様子など、時系列の変化を含めて読み取ることができる(図 12)。

このほか、毎月 1 回発行しているメールマガジンにて東日本大震災関連の情報を発信し、災害資料の紹介と資料の利用促進に努めた。メールマガジンは発送後にウェブサイトでバックナンバーを公開している (<http://dil.bosai.go.jp/dilmag/>)。地震後に発行したメールマガジンのなかで今回の震災に関連する記事を表 4 に示す。

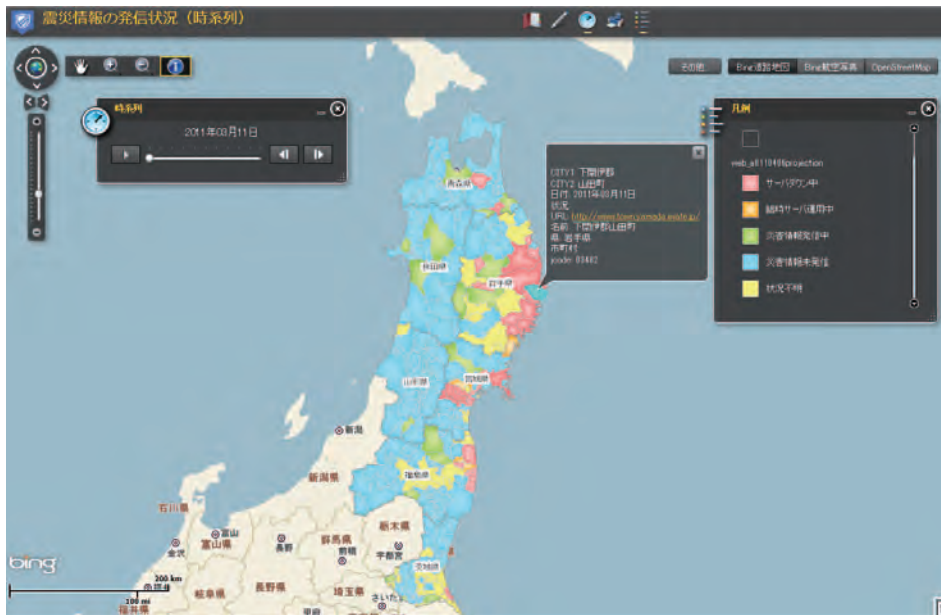


図 12 Web-GIS による自治体の Web による震災情報配信状況表示 (<http://landslide.bosai.go.jp/eq2011/>)
凡例色；赤：サーバ停止，オレンジ：臨時サーバで配信，緑：災害関連情報配信，青：災害情報未発信(通常の HP)，黄：不明

Fig. 12 Status of earthquake disaster information dissemination by local governments via Web-GIS (<http://landslide.bosai.go.jp/eq2011/>).
#Color legend; Red: Server down, Orange: Service by temporal server, Green: Service by normal server, Blue: Earthquake disaster information is not opened, Yellow: Unknown.

表 4 自然災害情報室メールマガジンに掲載された東北地方太平洋沖地震関連記事一覧

Table 4 List of contents on The 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake in the mail-magazine published by Disaster Information Laboratory.

メールマガジン号数	掲載内容
第 15 号 2011 年 04 月 08 日発行 http://dil.bosai.go.jp/dilmag/dilmag15.html	・ 災害発生地の今昔 <つくばで体感した震度 6 弱> ・ 防災コラム <防災科学の基礎知識> 第 15 回 三陸沿岸集落の高地移転 ・ 特集 東日本大震災関連サイト
第 16 号 2011 年 05 月 11 日発行 http://dil.bosai.go.jp/dilmag/dilmag16.html	・ 特集 東日本大震災調査報告 ・ 防災コラム <防災科学の基礎知識> 第 16 回 津波の危険海岸と危険域
第 17 号 2011 年 06 月 09 日発行 http://dil.bosai.go.jp/dilmag/dilmag17.html	・ 災害発生地の今昔 <869 年 貞観地震> ・ 室長コラム <災害情報について考える> 第 5 回 ・ 特集 東日本大震災関連イベント情報 ・ 防災コラム <防災科学の基礎知識> 第 17 回 津波の破壊作用と被害の特質
第 18 号 2011 年 07 月 08 日発行 http://dil.bosai.go.jp/dilmag/dilmag18.html	・ 災害発生地の今昔 <1611 年慶長地震津波> ・ 防災コラム <防災科学の基礎知識> 第十八回 地震による土砂災害

5. おわりに

東北地方太平洋沖地震は日本の観測史上最大の地震であるとともに、かつて経験したことのない多様で甚大な被害をもたらした。防災科学技術研究所のある茨城県つくば市でも震度6弱の強い揺れに見舞われ、所内でも被害が発生した。自然災害情報室では電動書架の損傷、資料の散乱などにより資料を取り出せない状況となり、仮復旧までに2か月を要した。外部利用者への対応は震災から半年を経た現在でも制限している。

防災の基本は事前の対策が重要である。今回の災害経験を活かすには、災害の状況を客観的に把握し、資料として後世に伝えることが必要である。この認識から、今回の地震および津波に関する各種災害資料の収集と分析、情報の公開を行った。

自然災害情報室では今後も災害に関する資料の収集と分析、情報の提供を責務とし、今回の震災の復旧・復興過程における新たな情報や資料についても収集を継続する。後世に残すこれらの資料が、地域社会における将来の災害に備える一助となれば幸いである。

謝辞

地方新聞収集にあたり、合同会社釜石新聞社には、復興釜石新聞を直接ご提供いただいております。地方新聞の購入手続きにあたっては、防災科学技術研究所の青井真氏、財団法人地震予知総合研究振興会の原口靖子氏にご協力いただきました。また、坪川博彰氏はじめ、ALL311関係者には資料提供等のご協力をいただきました。収集した大量の資料整理にあたっては、防災科学技術研究所自然災害情報室の田中亜紀子氏、篠崎いずみ氏、柴沼淳子氏に作業していただきました。「震災情報の発信状況(時系列)」コンテンツの開発においては、ESRI ジャパン株式会社よりGISソフトウェアと技術支援の無償提供をいただきました。ここに記し、感謝申し上げます。

参考文献

- 阿賀野市立吉田東伍記念博物館(2011):【資料紹介】吉田東伍著「貞観十一年 陸奥府城の震動洪溢」、阿賀野市立吉田東伍記念博物館 研究概報, 16pp, 阿賀野市立吉田東伍記念博物館。
- 防災科学技術研究所(2011a):水戸市内の斜面変動と茨城県南沿岸部の地盤災害被害調査報告。(http://lsweb1.ess.bosai.go.jp/disaster/tohokukantoeq2011-w02/files/20110407_nied_landslide.pdf, 2011.12.6)
- 防災科学技術研究所(2011b):2011年4月11日福島県直下型地震による地表地震断層調査(速報)。(http://dil.bosai.go.jp/disaster/2011eq311/pdf/110414_fault.pdf, 2011.12.6)
- 防災科学技術研究所(2011c):2011年4月11日福島県直下型地震による土砂災害調査(速報)。(http://dil.bosai.go.jp/disaster/2011eq311/pdf/110414_landslide.pdf, 2011.12.6)
- ファイト新聞社(2011):宮城県気仙沼発! ファイト新聞. 119pp, 河出書房新社。
- 石巻日日新聞社(2011):6枚の壁新聞 石巻日日新聞 東日本大震災後7日間の記録. 253pp, 石巻日日新聞社。
- 菊地征毅(2011):発刊にあたって. 復興釜石新聞, 第1号, 合同会社釜石新聞社。
- 国土地理院(1961):チリ地震津波調査報告書-海岸地形とチリ地震津波-. 国土地理院技術資料, D1-8。
- 国立国会図書館(2011):国立国会図書館のデジタル化資料 石巻日日新聞(号外)平成23年3月12日, http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2623226。
- 巨智部忠承(1896):三陸地方地震津波二附キ地質学上ノ考説. 地学雑誌, 8(91):附録。
- 宮城県(1903):宮城県海嘯誌. 426pp, 宮城県。
- 宮城県(1933):宮城県昭和震嘯誌. 1,147pp, 宮城県。
- 岡田義光(2011):2011年東北地方太平洋沖地震の概要. 防災科学技術研究所主要災害調査, No.48, 1-14。
- 佐竹健治・行谷祐一・山木 滋(2008):石巻・仙台平野における869年貞観津波の数値シミュレーション. 活断層・古地震研究報告, 8, 71-89。
- 澤井祐紀・岡村行信・宍倉正展・松浦旅人・Than Tin Aung・小松原淳子・藤井雄士郎(2006):仙台平野の堆積物に記録された歴史時代の巨大津波-1611年慶長津波と869年貞観津波の浸水域-. 地質ニュース, 624, 36-41。
- 宍倉正展・澤井祐紀・岡村行信・小松原純子・Than Tin Aung・石山達也・藤原治・藤野滋弘(2007):石巻平野における津波堆積物の分布と年代. 活断層・古地震研究報告, 7, 31-46。
- 宍倉正展・澤井祐紀・行谷祐一・岡村行信(2010):平安の人々が見た巨大津波を再現する-西暦869年貞観津波. AFERC NEWS, 16, 1-10。
- 寺田寅彦(1948):天災と国防. 寺田寅彦随筆集第五卷, 310pp, 岩波書店。
- 對馬豊憲(1896):青森県海嘯災害畫報. 全七枚。
- 宇佐美龍夫(2003):最新版日本被害地震総覧 416-2001. 605pp, 東京大学出版会。
- 渡辺偉夫(1998):日本被害津波総覧. 238pp, 東京大学出版会。
- 吉田東伍(1897):貞観十一年陸奥府城の震動洪溢. 歴史地理, 8, 1033-1040。
(2011年10月31日原稿受付,
2011年11月9日改稿受付,
2011年11月9日原稿受理)

要 旨

防災科学技術研究所自然災害情報室では、過去の災害資料のアーカイブは将来起こりうる災害の対策に資するという理念のもと、災害および防災科学技術に関する国内外の情報および資料の収集、整理、保管および提供を行うことを業務としている。2011年3月11日に発生した東日本大震災においても同様の活動を実施した。ここでは、新聞（全国紙、地方紙）、雑誌、過去の地震・津波に関する資料の収集、被害状況の現地調査を行い、研究所内での資料供覧と情報提供、ウェブサイトでの情報公開を実施した内容について報告する。

キーワード：東日本大震災、災害記録資料、地方紙、歴史災害資料、インターネット公開

付録1 所蔵資料リスト一覧

付録1-1 所蔵資料リスト【新聞・雑誌】

No.	東日本大震災関連所蔵資料【本文表1の新聞】(所蔵期間)
1	東奥日報(2011.03.11～2011.09.30)
2	陸奥新報(2011.03.12～2011.09.30)
3	デーリー東北(2011.03.12～2011.09.30)
4	岩手日報(2011.03.11～継続中)
5	岩手日日(2011.03.12～継続中)
6	胆江日日新聞(2011.03.11～2011.04.11)
7	復興釜石新聞(2011.06.11～継続中)
8	河北新報(2011.03.11～継続中)
9	石巻かほく(2011.03.14～継続中(12, 13日休刊))
10	福島民報(2011.03.11～2011.09.30)
11	福島民友(2011.03.12～継続中)
12	夕刊いわき民報(2011.03.12～2011.09.30(16-21日休刊))
13	茨城新聞(2011.03.11～継続中)
14	常陽新聞(2011.03.12～2011.09.30)
15	東京新聞(2011.03.11～2011.03.18)
16	朝日新聞(東京版)(2011.03.11～2011.05.31)
17	朝日新聞(茨城版)(2011.03.11～継続中)
18	毎日新聞(東京版)(2011.03.11～2011.05.31)
19	毎日新聞(茨城版)(2011.03.11～継続中)
20	読売新聞(東京版)(2011.03.11～2011.05.31)
21	読売新聞(茨城版)(2011.03.11～継続中)
22	日本経済新聞(東京版)(2011.03.11～2011.05.31)
23	日本経済新聞(茨城版)(2011.03.11～継続中)
24	産経新聞(東京版)(2011.03.11～2011.05.31)
25	Japan Times(2011.03.11～2011.03.31)

No.	東日本大震災関連所蔵資料【本文表1以外の新聞】(2011年所蔵号)
26	広報みやこ(特別号1-5, No.139, 140)
27	広報ふだい(4-7月号)
28	広報のだ(災害特別号No.1, 4-6月号)
29	広報たのはた(5, 6月号)
30	筑波大学新聞(No.292, 293)

No.	東日本大震災関連所蔵資料【一般誌】(2011年所蔵号)
31	DAYS JAPAN(Vol.8, No.4)
32	en-taxi(32号)
33	g 2(ジーツー)(Vol.7)
34	SWITCH(5月号)
35	Voice (ボイス)(5月号)
36	アエラ(3月21日～10月17日号)
37	アサヒグラフ(第116巻 第14号)
38	オルタナ(4月30日号)
39	クーリエ・ジャポン(5月号～7月号)
40	ザ・フナイ(6月号)
41	サピオ(4月20日号, 5月11日号)
42	サンデー毎日(3月27日～10月9日号)
43	ディスカバー・ジャパン(6月号)

自然災害情報室における東日本大震災関連資料の収集と公開－鈴木ほか

No.	東日本大震災関連所蔵資料【一般誌】(2011年所蔵号)
44	ニューズウィーク 日本版(3月30日～8月5日号)
45	フォーカス(4月20日号)
46	フライデー(4月1日)
47	フラッシュ(4月5日～10月11日号)
48	プレイボーイ(4月11日号)
49	プレジデント(4月18日号)
50	田舎暮らしの本(No.231)
51	会社 四季報(2011年3集)
52	群像(5月号)
53	月刊 THEMIS(テーマミス)(4月号)
54	月刊 ウイル(5月号～8月号)
55	月刊 ベルダ(4月号)
56	月刊 公論(5月号)
57	月刊 日本(5月号, 6月号)
58	紙の爆弾(6月号)
59	週刊アスキー(4月5日号)
60	週刊エコノミスト(3月29日～10月4日号)
61	週刊SPA(3月29日～10月4日号)
62	週刊ダイヤモンド(3月26日～10月1日号)
63	週刊ポスト(4月1日～10月7日号)
64	週刊金融財政事情(3月28日, 4月11日号)
65	週刊金曜日(3月18日～9月30日号)
66	週刊現代(4月2日～10月8日号)
67	週刊女性(3月29日～6月17日号)
68	週刊新潮(3月24日～10月6日号)
69	週刊朝日(3月25日～10月7日号)
70	週刊東洋経済(3月26日～最新号)
71	週刊文春(3月24日～10月6日号)
72	女性セブン(3月31日・4月7日合併号～6月9日号)
73	女性自身(3月29日～6月9日号)
74	小説現代(5月号)
75	新潮45(5月号, 6月号, 8月号)
76	世界(6月号～8月号)
77	正論(5月号～7月号)
78	宝島(5月号)
79	創 (The Tsukuru)(5・6月号)
80	中央公論(5月号, 9月号)
81	読売クオータリー(No.18)
82	日経おとなの off(3月号)
83	日経トレンドィ(5月号)
84	日経ビジネス(3月21日～最新号)
85	婦人公論(4月22日号～6月7日号)
86	文藝春秋(5月号特別号, 7月号～9月臨時増刊号)

No.	東日本大震災関連所蔵資料【児童誌】(2011年所蔵号)
87	News がわかる(第13巻 第10号)
88	月刊 ジュニア・エラ(5月号)

No.	東日本大震災関連所蔵資料【海外誌】(2011年所蔵号)
89	Bloomberg Businessweek Crisis in Japan(3月21-27)
90	FOREIGN AFFAIRS -Anthology-(Vol.34)
91	FOREIGN AFFAIRS -REPORT-(4月号)
92	Le Mensuel(4月号)
93	Le Point(3月17日号)
94	Newsweek(3月21日～6月6日)
95	The Economist(3月19-25日号)
96	TIME(3月28日～5月30日号)

No.	東日本大震災関連所蔵資料【専門誌】(2011年所蔵号)
97	Blue earth : 海と地球の情報誌 (Vol.23 No.2, 3)
98	BOSS(6月号)
99	INFECTION CONTROL 〈病院感染対策の専門誌〉(7月号)
100	INNERVISION 〈医療と画像の総合情報誌〉(6月号)
101	Isotope news (No.686-688)
102	JGL : Japan Geoscience Letters (Vol.7 No.3)
103	Journalism(2011年 6月号)
104	Newton(ニュートン)(定期購読中)
105	Nippon Steel monthly (Vol.212)
106	OHM(オーム) 技術総合誌(5月号, 6月号)
107	SORA (Vol.10)
108	Space Research Today (vol.181)
109	WEDGE(ウエッジ)(6月号)
110	ZAITEN(ザイテン)(6月号, 8月号)
111	エキスパートナーズ(6月号, 7月号)
112	エマージェンシー・ケア(救急医療チームの専門誌)(5月号～7月号)
113	エルネオス(4月号)
114	ガバナンス(2011年5月号)
115	ザ・リバティ(6月号)
116	ジャパントタイムズ・ニュースダイジェスト～上級を目指す英語教本～CD付(5月号)
117	ナーシングビジネス(7月号)
118	ナース専科(6月号)
119	ネイチャー・ダイジェスト(6月号)
120	ネオネイタルケア(新生児医療と看護専門誌)(6月号)
121	ハーバード・ビジネス・レビュー(5月号)
122	ビジネスガイド SR(別冊6月号)
123	ビジネスチャンス(6月号)
124	ビジネスロー・ジャーナル(6月号)
125	ヒューマンニュートリション(人間栄養)(7・8月号)
126	ファッション週刊紙 WWD ジャパン(3月21日号)
127	ブレーン(5月号, 6月号)
128	ベース設計資料(No.150)

No.	東日本大震災関連所蔵資料【専門誌】(2011 年所蔵号)
129	ヘルスケア・レストラン(6月号)
130	マネーポスト(5月号)
131	ロボコンマガジン(7月号)
132	運輸と経済(8月号)
133	科学技術動向(Vol.2011 No.6)
134	介護ビジョン(6月号)
135	会社法務 A2Z(6月号, 7月号)
136	解放教育(8月号)
137	株主手帳(5月号)
138	茅ヶ崎方式月刊英語教本: CD(5月号, 6月号)
139	茅ヶ崎方式月刊英語教本～中・上級者の国際英語学習書～(5月号, 6月号)
140	環境ビジネス(6月号, 7月号)
141	看護ジャーナル(5月号, 6月号)
142	企業診断(5月号)
143	季刊 教育法(6月25日号)
144	季刊 高校のひろば(80号)
145	季刊 実践自治(Vol.46)
146	季刊 人間と教育(6月10日号)
147	季刊 大こう(夏季号)
148	教育(8月号)
149	教職研修(6月号)
150	近代セールス(5月15日号)
151	金融ジャーナル(6月号, 7月号)
152	金融法務事情(4月25日号)
153	銀行営業推進(7号)
154	軍事研究(5月号, 6月号)
155	経済(6月号, 8月号, 9月号)
156	経済界(4月19日号)
157	撃論(5月号)
158	激流(6月号)
159	月刊 エネルギーフォーラム(6月号)
160	月刊 ガバナンス(8月号)
161	月刊 コンビニ(5月号)
162	月刊 プリンシパル(8月号)
163	月刊 プロパティマネジメント(6月号)
164	月刊 リベラルタイム(6月号)
165	月刊 飲食店経営(5月号)
166	月刊 下水道(6月号)
167	月刊 介護保険(6月号)
168	月刊 食堂(5月号)
169	月刊 新聞ダイジェスト(5月号～9月号)
170	月刊 総務(7月号, 9月号)
171	月刊 地理(6月号)
172	月刊 不動産流通(6月号)
173	月刊 保険診療(5月号, 6月号)
174	建築ジャーナル(7月号)
175	建築技術(6月号, 9月号)

No.	東日本大震災関連所蔵資料【専門誌】(2011年所蔵号)
176	建築知識(4月号～8月号)
177	建築東京(Vol.47 No.564)
178	研究ジャーナル(125号)
179	現代思想(5月号)
180	現代詩手帖(5月号)
181	航空ファン(6月号)
182	国土技術政策総合研究所資料(No.636)
183	国土地理院広報(514, 516号)
184	財界(4月19日号)
185	作文と教育(8月号)
186	子どもと福祉(2011 July Vol.4)
187	実業界(6月号)
188	社会科教育(8月号)
189	週刊ゴールデンチャート 週足(No.1616)
190	週刊ゴールデンチャート 日足(No.1599)
191	週刊読書人(2892)
192	住民と自治(6月号, 9月号)
193	商業界(6月号, 8月号)
194	食品商業(5月号)
195	信徒の友(8月号)
196	新建築 住宅特集(5月号)
197	新建築(5月号)
198	人と国土 21(7月号)
199	世界経済評論(7・8月号)
200	政経往来(6月号)
201	精神科看護(6月号)
202	税(6月号)
203	税経通信(6月号)
204	税務弘報(6月号)
205	税理(6月号)
206	宣伝会議(5月1日号)
207	前衛(6月号)
208	総合教育技術(6月号)
209	体育科教育(8月号)
210	大法輪(6月号)
211	知的資産創造(8月号)
212	地域ケアリング(7月号)
213	地域開発(6月号)
214	地方財務(6月号)
215	中央農業総合研究センターニュース No.47
216	潮(5月号, 6月号)
217	調査情報(7・8月号)
218	電気と工事(6月号, 7月号)
219	電気計算(5月号～7月号)
220	都市問題(6月号～8月号)
221	土木施工(5月号)
222	道路建設(6月号)

自然災害情報室における東日本大震災関連資料の収集と公開－鈴木ほか

No.	東日本大震災関連所蔵資料【専門誌】(2011 年所蔵号)
223	道路建設(No.728)
224	日経 Automotive Technology(7月号)
225	日経 Linux(5月号)
226	日経エコロジー(7月号)
227	日経エレクトロニクス(6月13日号)
228	日経コンピュータ(3月31日号)
229	日経サイエンス(6月号)
230	日経トップリーダー(4月号)
231	日経メディカル(4月号)
232	日経ものづくり(4月号, 5月号)
233	日経情報ストラテジー(6月号)
234	日本ガス協会誌(Vol.64 No.3)
235	販売革新(5月号)
236	病院(6月号)
237	保健室(8月)
238	望星(5月号)
239	未来へげんき(No.21)
240	明治(Vol.51)
241	養殖(6月号)
242	理科教室(7月号, 9月号)
243	歴史通(5月号)

No.	東日本大震災関連所蔵資料【地域誌】(2011 年所蔵号)
244	JOYO ARC(Vol.43 No.502-504)
245	みやこわが町(特別号1, 2)
246	月刊 中国 NEWS(6月号)
247	仙台学(Vol.11, Vol.12)
248	東京人(7月号)

No.	明治・昭和・1960年チリ地震津波関連所蔵資料(記事掲載巻号)
249	広報ふだい(2010(H22) 3月号)
250	広報ぼうさい(No.28)
251	防災情報新聞(No.101, 102)
252	Security(セキュリティ)(Vol.20 No.4)
253	Seismo(Vol.8 No.6)
254	近代消防(Vol.48 No.5)
255	地震ジャーナル(No.49)
256	地理(第28巻 第4号)
257	津波工学研究報告(No.27)
258	波となぎさ(No.184)
259	目で見る水害レポート(特別号 No.1, 5)

No.	貞観・慶長地震津波関連所蔵資料(記事掲載巻号)
260	AFERC News(No.16)
261	活断層・古地震研究報告(No.7, 8)
262	地質ニュース(Vol.2006 No.8)

付録1-2 所蔵資料リスト【図書, DVD, CD, 新聞縮刷版、雑誌増刊・別冊】

No.	東日本大震災関連所蔵資料【図書】	出版者	出版年
1	2011年の衝撃!: 3.11後の世界経済から資産を守る方法・増やす方法	フォレスト出版	2011.5
2	2:46 Aftershocks 午後2時46分すべてが変わった	語研	2011.6
3	3.11 絆のメッセージ: 世界から届いたエールと被災地のいま	東京書店	2011.6
4	3.11 クライシス!	マガジンハウス	2011.4
5	3.11 心に残る140字の物語	学研マーケティング(発売)	2011.6
6	3.11 後の心を立て直す ベスト新書	KK ベストセラーズ	2011.7
7	0311 再起動: 君たちに東日本大震災後の世界を託す	徳間書店	2011.6
8	「3.11」震災法務 Q&A	三和書籍	2011.6
9	3.11 その日を忘れない.: 歴史上の大津波, 未来への道しるべ	鳥影社	2011.6
10	3.11: 大震災・原発災害の記録: 写真ルポルタージュ	農山漁村文化協会	2011.7
11	3.11 大震災 写真に残された記憶と祈り	エクスマレッジ	2011.7
12	3.11 に勝つ日本経済	PHP 研究所	2011.5
13	3.11 の衝撃震災・原発: 特報部は伝えた	中日新聞社	2011.6
14	3.11 東日本大震災奇跡の生還: 緊急現地ルポ: そのとき私たちはこうして生き残った!!	コスモトゥーワン	2011.7
15	3.11 東日本大震災巨震激流 The East Japan earthquake & tsunami	三陸新報社	2011.7
16	3.11 東日本大震災でわかった! 地震・津波の新常識	ブティック社	2011.8
17	3.11 東日本大震災ドキュメント 自衛隊 もう1つの最前線	毎日新聞社	2011.7
18	3.11 メルトダウン -大津波と核汚染の現場から- JVJA 写真集	凱風社	2011.7
19	6枚の壁新聞: 石巻日日新聞・東日本大震災後7日間の記録	角川マガジズ	2011.7
20	AERA Mook -震災と鉄道 全記録- 鉄路よ熱く甦れ	朝日新聞社	2011.9
21	Feel Love (フィールラブ) コラム特集 2011.3.11 そして, いま私が思うこと	祥伝社	2011.7
22	FRIDAY 増刊 東日本大震災 全記録 完全保存版	講談社	2011.5
23	FRIDAY 増刊 福島第一原発 「放射能の恐怖」 全記録	講談社	2011.6
24	現代思想 9月臨時増刊 緊急復刻 imago -東日本大震災と〈こころ〉のゆくえ-	青土社	2011.8
25	ITで実現する 震災・省電力BCP [完全ガイド] - 3.11の教訓から生きたBCPをつくる	日経 BP 社	2011.7
26	PRAY FOR JAPAN: 3.11 世界中が祈りはじめた日	講談社	2011.4
27	Q&A 学校災害対応ハンドブック	ぎょうせい	2011.5
28	Q&A 震災と雇用問題	商事法務	2011.6
29	Q&A 東日本大震災と事業継続の法務	商事法務	2011.5
30	Q&A 東日本大震災と税務対応	商事法務	2011.6
31	Q&A 東日本大震災と登記実務	商事法務	2011.5
32	Q&A 被災者生活再建支援法	商事法務	2011.5
33	THE DAYS AFTER 東日本大震災の記憶 【写真集】	飛鳥新社	2011.6
34	THE GREAT EAST JAPAN EARTHQUAKE AND TSUNAMI - A Photojournalistic Account of The First 10 Days of The Disaster-	KAHOKU SHIMPO PUBLISHING CO.	2011.6
35	The Japan Times Special Report 3.11 英文版: 東日本大震災特集	The Japan Times	2011.6
36	The Japan Times 社説集 2011年上半期 1月~6月(CD付き)	The Japan Times	2011.8

No.	東日本大震災関連所蔵資料【図書】	出版者	出版年
37	TIME -Nature's Extremes-	Time Books	2011.5
38	明日の日本をつくる復興提言 10	アスキー・メディアワークス	2011.6
39	「あの日」のこと：東日本大震災 2011.3.11	ポプラ社	2011.6
40	あの日からのマンガ	角川グループパブリッシング(発売)	2011.8
41	生かされなかった教訓巨大地震が原発を襲った	朝日新聞出版	2011.6
42	生き残れない「原子力防災計画」：地方政治の現実	白馬社	2010.8
43	生き延びるための地震学入門	幻冬舎	2011.7
44	イザのとき役立つ震災ハンドブック	中経出版	2011.6
45	いつか、菜の花畑で：東日本大震災をわすれない	扶桑社	2011.9
46	上を向いて歩こう！	講談社	2011.7
47	大津波と原発	朝日新聞社	2011.5
48	外国人が見た東日本大震災	武田ランダムハウスジャパン	2011.6
49	悲しんでいい：大災害とグリーフケア	NHK 出版	2011.7
50	環境防災学：災害大国日本を考える文理シナジーの実学	技報堂出版	2011.8
51	共震ドクター：阪神，そして東北 ロハス・メディカル	ロハスメディア	2011.7
52	巨大地震 その時わたしは・・・	コスミック出版	2011.6
53	巨大津波が襲った：3.11 大震災：発生から 10 日間の記録：緊急出版特別報道写真集	河北新報出版センター(発売)	2011.4
54	巨大津波の記録：明治・昭和・平成	毎日新聞社	2011.7
55	検証東日本大震災：そのときソーシャルメディアは何を伝えたか？	ディスカヴァー・トゥエンティワン	2011.6
56	検証：東日本大震災の流言・デマ	光文社	2011.5
57	心をつなぐニュース：東日本大震災	文藝春秋	2011.6
58	この言葉を忘れない：3.11 語りつぎたい勇気と感動のつぶやき	徳間書店	2011.4
59	災害から親を救う 50 の手立て	扶桑社	2011.7
60	災害時ケータイ & ネット活用 BOOK:東日本大震災緊急出版:「つながらない!」とき、どうするか?	朝日新聞出版	2011.5
61	災害時の労務管理ハンドブック：大震災の教訓を実務に活かす	産労総合研究所出版部経営書院	2011.7
62	災害ストレス直接被災と報道被害	角川グループパブリッシング(発売)	2011.6
63	災害そのとき人は何を思うのか	KK ベストセラーズ	2011.7
64	災害とソーシャルメディア：混乱，そして再生へと導く人々の「つながり」	毎日コミュニケーションズ	2011.7
65	災害に強いライフプランニング：保険，住宅，家計，税制，社会保険 etc. お客さまの命を救う FP アドバイス：別冊 Financial Adviser The best proposals for the clients	近代セールス社	2011.7
66	災害に負けない！保険選び：保険選びで差がつく！被災後の再スタート	宝島社	2011.7
67	災害のあと始末	エクスナレッジ	2011.5
68	災害ボランティアの心構え	ソフトバンククリエイティブ	2011.6

No.	東日本大震災関連所蔵資料【図書】	出版者	出版年
69	再起	KK ベストセラーズ	2011.8
70	先送りできない日本：“第二の焼け跡”からの再出発	角川書店	2011.5
71	三度目の奇跡：日本復活への道：緊急出版	日本経済新聞出版社	2011.5
72	自衛隊災害派遣装備パーフェクトガイド	イカロス出版	2011.5
73	地震・津波め、おだづなよ！：激震地・石巻からのドキュメント	白順社	2011.4
74	地震と原発今からの危機：激トーク・オン・デマンド特別編	扶桑社	2011.6
75	写真記録東日本大震災：3.11 から 100 日	毎日新聞社	2011.7
76	写真集日本の自然災害：東日本大震災襲来：津波による原発事故も収録	日本専門図書出版	2011.6
77	写真で見るトモダチ作戦	並木書房	2011.6
78	写真ルポタージュ 3.11 大震災・原発災害の記録	農文協	2011.7
79	首都直下大地震から会社をまもる 現代選書	信山社	2011.6
80	震災 7 日間	角川グループパブリッシング (発売)	2011.9
81	震災恐慌！：経済無策で恐慌が来る！	宝島社	2011.6
82	震災大不況で日本に何が起こるのか	徳間書店	2011.4
83	震災で日本経済はどうなるか：緊急出版	日本経済新聞出版社	2011.4
84	震災と心のケア：子どもの心の傷が PTSD になる前に	日東書院本社	2011.7
85	震災トラウマ ベスト新書	ベストセラーズ	2011.7
86	震災に負けない！Twitter・ソーシャルメディア「超」活用術	エクスマレッジ	2011.5
87	震災の法律相談	学陽書房	2011.6
88	震災復興 - どうなるこの地域、あの企業 -	洋泉社	2011.7
89	震災復興の論点	新日本出版社	2011.6
90	震災法務 Q&A：企業対応の実務	金融財政事情研究会	2011.6
91	人事担当者のための震災対応の実務：わかりやすい Q&A と解説，最新調査 労政時報選書	労務行政	2011.6
92	「生活防災」のすすめ：東日本大震災と日本社会	ナカニシヤ出版	2011.7
93	世界が感嘆する日本人：海外メディアが報じた大震災後のニッポン	宝島社	2011.6
94	想定外シナリオと危機管理：東電会見の失敗と教訓	商事法務	2011.6
95	それでもいまは、真っ白な帆を上げよう：3.11 東日本大震災後に発信された、学長からの感動メッセージ	旺文社	2011.6
96	大震災：欲と仁義	共同通信社	2011.6
97	大震災・原発事故とメディア 放送レポート	大月書店	2011.7
98	大震災後の日本経済：100 年に 1 度のターニングポイント	ダイヤモンド社	2011.5
99	大震災自閉っこ家族のサバイバル	ぶどう社	2011.7
100	大震災でネットはどう使われたか	洋泉社	2011.7
101	大震災でわかった学校の大問題：被災地の教室からの提言	小学館	2011.8
102	大震災とコミュニティ：復興は”人の絆”から	自治体研究社	2011.7
103	大震災のなかで：私たちは何をすべきか	岩波書店	2011.6
104	大震災復興へのみちすじ：防災政策の新段階と地方自治体の政策活動	自治体研究社	2011.7
105	闘う日本 東日本大震災 1 カ月の全記録	日本工業新聞社(発売)	2011.4
106	地図で読む東日本大震災 今がわかる時代がわかる	成美堂出版	2011.7
107	超円高で震災日本は 3 年後に復活する	徳間書店	2011.4

No.	東日本大震災関連所蔵資料【図書】	出版者	出版年
108	超巨大地震に迫る：日本列島で何が起きているのか	NHK 出版	2011.6
109	「次」にひかえる M9 超巨大地震	ニュートンプレス	2011.7
110	つながれ!! 想い。がんばろう。日本!!	白泉社	2011.5
111	津波と原発	講談社	2011.6
112	停電・震災に備える PC 管理術：データ/ネットワークを守る安心環境を構築せよ	技術評論社	2011.8
113	徹底図解 東日本大震災 津波/地震/原発/電力 3月11日に何がおこったのか？	双葉社	2011.6
114	東電・福島第1原発事故備忘録：原子力利権とCO2地球温暖化説が日本を壊滅させたシリーズ「環境問題を考える」	不知火書房	2011.5
115	都市住民のための防災読本	新潮社	2011.7
116	都市データパック 2011 年版	東洋経済社	2011.7
117	ともしび：被災者から見た被災地の記録	小学館	2011.8
118	日本人の復興力：緊急提言	徳間書店	2011.5
119	日本人が知りたい巨大地震の疑問 50：東北地方太平洋沖地震の原因から首都圏大地震の予測まで	ソフトバンククリエイティブ	2011.6
120	日本鉄道旅行地図帳 一東日本大震災の記録-	新潮社	2011.8
121	日本復興計画	文藝春秋	2011.4
122	果てなき荒野を越えて	三宝出版	2011.7
123	早わかり東日本大震災に対応する税務：既存法と特例法における特例措置の全体像	税務経理協会	2011.7
124	東日本大震災	産経新聞社	2011.3
125	東日本大震災特別報道写真集	共同通信社	2011.4
126	東日本大震災読売新聞報道写真集	読売新聞東京本社	2011.5
127	東日本大震災復興への提言：持続可能な経済社会の構築	東京大学出版会	2011.6
128	東日本大震災復興支援地図：青森・岩手・宮城・福島・茨城・千葉 太平洋沿岸地域	昭文社	2011.6
129	東日本大震災 特別報道写真集	上毛新聞社	2011.4
130	東日本大震災 特別報道写真集	共同通信社	2011.4
131	東日本大震災 特別報道写真集	デーリー東北新聞社	2011.4
132	東日本大震災 特別報道写真集	茨城新聞社	2011.4
133	東日本大震災 茨城全記録 特別報道写真集	茨城新聞社	2011.7
134	東日本大震災 読売新聞報道写真集	読売新聞社	2011.5
135	東日本大震災 特別報道写真集	神戸新聞総合出版センター(発売)	2011.4
136	東日本大震災 特別報道写真集：2011.3.11：1カ月の全記録：観測史上世界最大級 M9.0 地震・津波・原発被災	信濃毎日新聞社	2011.4
137	東日本大震災茨城全記録：特別報道写真集	茨城新聞社	2011.7
138	東日本大震災からの日本再生	中央公論新社	2011.6
139	東日本大震災からの復興に関する提言：戦略提言	科学技術振興機構研究開発戦略センター	2011.5
140	東日本大震災記録写真集 TSUNAMI 3.11	第三書館	2011.6
141	東日本大震災	産業経済新聞社	2011.3
142	「東日本大震災・原発事故」復興まちづくりに向けて	学芸出版社	2011.7

No.	東日本大震災関連所蔵資料【図書】	出版者	出版年
143	東日本大震災, その時企業は	日本経済新聞出版社	2011.7
144	東日本大震災: その時メディア産業は: 2011年3月21日付~6月6日付紙面でみるメディア産業の動向	文化通信社	2011.7
145	東日本大震災調査報告書	茨城大学東日本大震災調査団	2011.5
146	東日本大震災津波詳細地図 Detailed Maps of the Impacts of the 2011 Japan Tsunami 上 青森・岩手・宮城	古今書院	2011.1
147	東日本大震災津波詳細地図 Detailed Maps of the Impacts of the 2011 Japan Tsunami 下 福島・茨城・千葉	古今書院	2011.1
148	東日本大震災と福島原発問題: 臨時特別号!! 池上彰の学べるニュース	海竜社	2011.5
149	東日本大震災に関する調査(帰宅困難/心理と行動編)調査報告書: 自主研究	サーベイリサーチセンター	2011.6
150	東日本大震災の教訓: 津波から助かった人の話	古今書院	2011.8
151	東日本大震災の記録: 原子力事故と計画停電	日本電気協会新聞部	2011.6
152	東日本大震災復旧・復興計画の基本	未来予測研究所	2011.5
153	東日本大震災 復興支援地図 - 青森・岩手・宮城・福島・茨城・千葉 -	旺文社	2011.7
154	東日本大震災を解き明かす NHK サイエンス ZERO	NHK 出版	2011.6
155	東日本大震災を乗り越えて ともに生きる 23人が語る「言葉の力・生きる希望」	PHP 研究所	2011.6
156	東日本大震災をめぐる税制特例: 平成23年4月制定: 法人税・所得税・相続税・贈与税・消費税他各税の特例制度を解説	清文社	2011.7
157	東日本大震災の教訓 住宅編 - 震災に強い家 -	日経BP社	2011.6
158	東日本大震災の教訓 都市・建築編 - 覆る建築の常識 -	日経BP社	2011.6
159	東日本大震災の教訓 土木編 - インフラ被害の全貌 -	日経BP社	2011.6
160	被災地との絵手紙: 東日本大震災	中央公論新社	2011.7
161	被災地の本当の話をしよう: 陸前高田市市長が綴るあの日とこれから	ワニブックス	2011.8
162	漂流被災者: 「人間復興」のための提言	河出書房新社	2011.7
163	風評被害: そのメカニズムを考える	光文社	2011.5
164	福島原発事故はなぜ起きたか	藤原書店	2011.6
165	福島原発難民: 南相馬市・一詩人の警告: 1971年-2011年	コールサック社	2011.5
166	福島原発メルトダウン: Fukushima	朝日新聞出版	2011.5
167	福島第一原発事故衝撃の事実: 元IAEA緊急時対応レビューアーが語る: 放射能はウソをつかない!?	ぜんにち出版	2011.6
168	平成の三陸大津波: 2011.3.11 東日本大震災岩手の記録: 特別報道写真集	メディアパル(発売)	2011.6
169	平成の三陸大津波 - 東日本大震災 岩手の記録 -	岩手日報社	2011.6
170	保健・医療従事者が被災者と自分を守るためのポイント集	中外医学社	2011.6
171	ポスト3.11のマーケティング: 企業は, 消費者は, どう変わるか?	朝日新聞出版	2011.7
172	ほんとうの復興	新潮社	2011.6
173	マイケル・サンデル 大震災特別講義 - 私たちはどう生きるのか -	NHK 出版	2011.5
174	毎日ムック - 明治・昭和・平成 - 巨大津波の記録	毎日新聞社	2011.7
175	待ったナシの防災習慣	文芸社	2011.5
176	宮城県気仙沼発! ファイト新聞	河出書房新社	2011.7
177	宮城県沿岸部における被災地アンケート調査報告書: 自主研究	サーベイリサーチセンター	2011.5

自然災害情報室における東日本大震災関連資料の収集と公開－鈴木ほか

No.	東日本大震災関連所蔵資料【図書】	出版者	出版年
178	みんなで生き抜く防災術：地震停電放射能：東日本大震災から私たちが学んだこと	小学館	2011.4
179	リアル M9.0 次の地震の前に知っておきたいこと 徳間文庫	徳間書店	2011.6
180	罹災の光景：三陸住民震災日誌	本の泉社	2011.6
181	ルポ東京電力原発危機 1 カ月 朝日新書	朝日新聞出版	2011.6
182	列島強靱化論：日本復活 5 ヶ年計画 文春新書	文藝春秋	2011.5
183	「脇役」たちがつないだ震災医療：ドキュメント・東日本大震災	医業経済社	2011.6
184	わたしの 3.11：あの日から始まる今日	毎日新聞社	2011.5

No.	東日本大震災関連所蔵資料【DVD, CD】	出版者	出版年
185	The Great East Japan Earthquake A lesson for the next generation	ビデオプラザ神奈川	2011.9
186	3.11 東日本大震災の真実未曾有の災害に立ち向かった自衛官「戦い」の現場	イーネット・フロンティア	2011.7
187	東日本大震災宮城・石巻地方沿岸部の記録：大震災記録映像 DVD	ビデオプラザ神奈川	2011.5
188	東日本大震災：岩手 復興へ向けて	テクニカルスタッフ	2011.6
189	東日本大震災：宮城 復興へ向けて	テクニカルスタッフ	2011.6
190	Songs for Japan (CD)	ソニーミュージックエンタテイメント	2011.4

No.	東日本大震災関連所蔵資料【新聞縮刷版】	出版者	出版年
191	朝日新聞縮刷版 東日本大震災特別紙面集成 2011.3.11-4.12	朝日新聞出版(発売)	2011.5
192	河北新報特別縮刷版：3.11 東日本大震災 1 カ月の記録：2011.3.11-4.11 紙面集成	竹書房	2011.6
193	東日本大震災 1 カ月の記録：2011 年 3 月 11 日～4 月 11 日：読売新聞特別縮刷版	読売新聞東京本社	2011.5
194	読売新聞 「縮刷版 CD-ROM」 東日本大震災 3 月号増刷版	読売新聞	2011.6
195	読売新聞 「縮刷版 CD-ROM」 東日本大震災 4 月号増刷版	読売新聞	2011.6
196	読売新聞特別縮刷版 東日本大震災 1 カ月の記録	読売新聞社	2011.5

No.	東日本大震災関連所蔵資料【雑誌増刊・別冊】	出版者	出版年
197	週刊文春増刊 東京電力の大罪	文藝春秋	2011.7
198	別冊セオリー 日本復活計画：菅下清広と堺屋太一、藪中三十二ら「予測の達人」が緊急集結！	講談社	2011.5
199	多聴多読マガジン増刊 地震、津波、そして原発事故・・・ 世界が語るニッポン	コスモピア	2011.6
200	別冊日経サイエンス (No.178)	日経サイエンス	2011.5
201	日経ビジネス増刊 徹底予測 日本の復興	日経 BP 社	2011.6
202	ビジネスガイド増刊大震災・電力不足を乗り切る 労務管理と助成金	日本法令	2011.8
203	文藝春秋増刊 つなみ - 被災地のこども 80 人の作文集 -	文藝春秋	2011.6

No.	明治・昭和・1960 年チリ地震津波関連所蔵資料【図書】	出版者	出版年
204	三陸地方地震津波二付キ地質学上ノ考説	東京地学協会	1896.7
205	津波をみた男：100 年後へのメッセージ	大船渡市立博物館	1997.3
206	三陸海岸大津波 文春文庫	文藝春秋	2004.3
207	1896 明治三陸地震津波報告書	中央防災会議：災害教訓の継承に関する専門調査会	2005.3

No.	明治・昭和・1960年チリ地震津波関連所蔵資料【図書】	出版者	出版年
208	津波の恐怖：三陸津波伝承録	東北大学出版会	2005.3
209	青森県海嘯災害画報	對馬豊憲	1896.8
210	宮城県海嘯誌	宮城県	1903.6
211	三陸町史津波編 第四巻	三陸町史刊行委員会	1989.3
212	津波と防災三陸津波始末 シリーズ繰り返す自然災害を知る・防ぐ	古今書院	2008.9
213	災害史に学ぶ 海溝型地震・津波編	内閣府(防災担当)災害予防担当	2011.3
214	古今災害写真大観	新教社	1938.1
215	チリ地震津波調査報告書：海岸地形とチリ地震津波	建設省国土地理院	1960
216	1960年5月24日チリ地震津波踏査速報 昭和35年度 科学研究費補助金(総合研究)	文部省科学研究費	1960.7
217	チリ津波報告(各地方気象台報告の私製本)	[各地方気象台]	1960.8
218	チリ地震津波調査報告書：海岸地形とチリ地震津波	建設省国土地理院	1961
219	チリ地震津波調査報告書 付図(塩釜港周辺津波地形分類図, 気仙沼地形分類図, 気仙沼水害状況図, 志津川地形分類図/志津川津波状況図)	建設省河川局海岸課	1961
220	チリ地震津波報告	気象庁海洋気象部	1961.3
221	八戸港を中心としたチリ地震津波資料集覧	運輸省第二港湾建設局 八戸港工事事務所	1961.3
222	漂流五時間の恐怖チリ沖地震津波を語る：浜中町チリ沖地震津波十周年座談会より 昭和四十五年三月二十四日(日)	浜中町役場	1990.7
223	海からの警告南海・チリ一地震津波録	高知県須崎市	1995.5
224	チリ地震津波の記憶：淡路島(Memories of The Chilean Tsunami in Awaji) (DVD)	兵庫県立淡路高等学校英語研究部	2007.12
225	1960チリ地震津波報告書	中央防災会議：災害教訓の継承に関する専門調査会	2010.1
226	あれから50年今だから語れるチリ沖地震津波	浜中町赤十字奉仕団	2010.12
227	復刻 昭和の津波 付 昭和の津波余録・チリ一津波	田辺市教育委員会	1999.5

No.	貞観地震津波関連資料【図書】	出版者	出版年
228	阿賀野市立吉田東伍記念博物館研究概報 I	阿賀野市立吉田東伍記念博物館	2011.5

No.	災害史全体関連資料【図書】	出版者	出版年
229	日本被害津波総覧	東京大学出版会	1998.2
300	最新版日本被害地震総覧	東京大学出版会	2003.4

付録2 現地調査の記録



(a)



(b)



(c)



(d)



(e)



(f)

- (a) 青森県八戸市：八戸港第3魚市場北部。津波によって破壊された岸壁のブロックが反転した状態で打ち上げられている。
- (b) 岩手県九戸郡洋野町：国道45号線北上中。津波浸水想定地域開始の標示。津波浸水が想定される地域の道路上に設置されているこの標示は、東北地方を通して津波の被害地域とよく一致していた。
- (c) 岩手県宮古市田老地区：高台より防潮堤の内側(陸側)を撮影。今回の津波は、1979年(昭和54年)に完成した長さ2,433m、海面からの高さ10mの長大な防潮堤を乗り越えて浸水し、市街は壊滅的な被害となった。

- (d) 岩手県宮古市田老地区：防潮堤上より内側(陸側)を撮影。防潮堤を乗り越えた津波がもたらした被害の様子。
- (e) 岩手県上閉伊郡大槌町末広町：江岸(こうがん)寺。今回の震災では、津波による市街の破壊に加え、なんらかの理由で瓦礫に着火し、大規模火災が発生した地域も複数あった。火災の直接的な原因は個別に調査を行う必要がある。
- (f) 岩手県陸前高田市：国道340号線(高田街道・高田バイパス)南下中。緩やかな下り坂を進み標高が下がったところで津波による被災域が広がる。標高の差が津波被害の大きさと直結していた。



(g)



(h)



(i)



(j)



(k)



(l)

- (g) 宮城県気仙沼市：国道346号線沿い。JR気仙沼線元吉駅から西250m付近にある自衛隊活動拠点のひとつ。現場では、自衛隊、警察などの被災地支援活動のほか、ボランティア団体の拠点や移動体通信事業者による臨時基地局など、さまざまな支援活動が展開されていた。
- (h) 宮城県石巻市雄勝町水浜：かつては小規模な集落が存在したが、建物の土台しか残っていない。左手高台にある作楽神社付近まで瓦礫がみえることから、相当な波高の津波が到達したことが予想される。
- (i) 宮城県牡鹿郡女川町桜ヶ丘：国道398号線。女川バイパスを東進中、北方向を撮影。東(写真右手方向)から幹線道路沿いに津波が侵入し、浸水域は陸側(西側・写真左手方向)と幹線道路の南北にある低地に向

かって広がった。

- (j) 宮城県石巻市八幡町：国道398号線南下中。写真左の道路をふさぐ建物は東(写真左手)から西方向(写真右手)へ倒壊しているが、津波は南西から北東方向へ進入した。したがって、この建物は引き波によって運ばれてきたものと思われる。
- (k) 宮城県仙台市太白区緑ヶ丘：住宅地が展開している盛土部分が地すべりあるいは沈下を起こし、広範囲の住宅に被害を生じた。この地域は1978年宮城県沖地震での地盤変動発生区域を含む。
- (l) 福島県いわき市田人町石住貝屋：2011年4月11日17:16(M7.0)福島県浜通りの震度6弱の余震によって発生した斜面崩壊。この崩壊によって住宅2棟が全壊した。



(m)



(n)



(o)



(p)



(q)



(r)

- (m) 福島県いわき市渡辺町上釜戸：2011年4月11日 17:16 (M7.0) 福島県浜通りの震度6弱の余震によって発生した地すべり。
- (n) 福島県いわき市田人町旅人：県道134号線。2011年4月11日17:16 (M7.0) 福島県浜通りの震度6弱の余震によって発生した地表断層。断層崖はほぼ垂直で、断層の走行方位はN15°W。
- (o) 茨城県ひたちなか市湊本町：那珂湊漁港の護岸の変形。津波による直接的な被害が小さかった地域では、地盤液状化にともなう地盤や構造物の破損、変形による被害が目立った。

- (p) 霞ヶ浦湖北浦に架かる鹿行(ろっこう)大橋の落橋：昭和43年に完成し、北浦に架かる5本の橋梁のうち最も北に位置する橋。
- (q) 千葉県香取市佐原。香取市佐原保健センター周辺：利根川沿いの地域では、地盤液状化による地盤災害とそれによる建物の被害、膨大な量の噴砂による被害が目立つ。
- (r) 千葉県旭市野中。津波によって破壊され打ち上げられた橋：この一帯は九十九里浜と呼ばれ、多くの海水浴場がある。この地域でも津波による被害が散見された。

付録3 東北地方太平洋沖地震特設サイト 内容一覧

コンテンツ	見出し	内容
地震概説		
	今回の地震について(速報) http://dil2.bosai.go.jp/disaster/2011eq311/afterquake.html	【東北地方太平洋沖地震について(速報)】 2011年3月22日岡田義光理事長より発表された解説記事のキーワードと概要の掲載と本文へのリンク
調査報告		
	自然災害情報室被害状況 http://dil2.bosai.go.jp/disaster/2011eq311/dilhigai.html	自然災害情報室の被災状況写真 地震後の居室の様子、閲覧室や書架の被災状況を掲載。
		
	水戸市内の斜面変動と茨城県南沿岸部の地盤災害被害調査報告 http://lweb1.ess.bosai.go.jp/disaster/tohokukantoeq2011-w02/files/20110407_nied_landslide.pdf	自然災害情報室・地すべり変動研究チーム合同調査報告PDF, 2011/4/7-8 実施
	2011年4月11日福島県直下型地震による地表地震断層調査(速報) http://dil2.bosai.go.jp/disaster/2011eq311/pdf/110414_fault.pdf	自然災害情報室・地すべり変動研究チーム合同調査報告PDF, 2011/4/14 実施
	2011年4月11日福島県直下型地震による土砂災害調査(速報) http://dil2.bosai.go.jp/disaster/2011eq311/pdf/110414_landslide.pdf	自然災害情報室・地すべり変動研究チーム合同調査報告PDF, 2011/4/14-18 実施

東日本太平洋岸における津波災害		
<p>【災害の経験をいかに伝え活かしていくか】 http://dil2.bosai.go.jp/disaster/2011eq311/tsunami00_keiken.html</p>	<p>【津波危険地集落の高地移転】 http://dil2.bosai.go.jp/disaster/2011eq311/tsunami01_kouchiiten.html</p>	<p>東北地方太平洋沖地震を受けて、過去の災害の経験をどのように活かせるのかを記載</p>
<p>【津波の警報、襲来の認知および避難対応】 http://dil2.bosai.go.jp/disaster/2011eq311/tsunami02_keihouhinan.html</p>	<p>【明治三陸津波の被害と避難対応】 http://dil2.bosai.go.jp/disaster/2011eq311/tsunami00_meiji.html</p>	<p>三陸沿岸の被災集落の高地移転について、過去の事例を記載</p>
<p>【津波の警報、襲来の認知および避難対応】 http://dil2.bosai.go.jp/disaster/2011eq311/tsunami02_keihouhinan.html</p>	<p>【明治三陸津波の被害と避難対応】 http://dil2.bosai.go.jp/disaster/2011eq311/tsunami00_meiji.html</p>	<p>津波地震時における津波襲来までの時間、避難のうえどりがちな行動とその行動の危険な点を指摘</p>
<p>【明治三陸津波の被害と避難対応】 http://dil2.bosai.go.jp/disaster/2011eq311/tsunami00_meiji.html</p>	<p>【明治三陸津波の被害と避難対応】 http://dil2.bosai.go.jp/disaster/2011eq311/tsunami00_meiji.html</p>	<p>防災基礎講座 災害事例編より改変。明治三陸津波の被害について図表を交えて解説</p>

<p>【昭和三陸津波の被害と避難・高地移転】 http://dil2.bosai.go.jp/disaster/2011eq311/tsunami00_showa.html</p>	<p>防災基礎講座 災害事例編より改変。昭和三陸津波の被害について図表を交えて解説</p>
<p>【チリ津波の被害と遠地津波への対応】 http://dil2.bosai.go.jp/disaster/2011eq311/tsunami00_chile.html</p>	<p>防災基礎講座 災害事例編より改変。チリ地震津波の被害と遠地津波への対応について解説</p>



過去の地震・津波災害



<p>三陸地方の津波災害 http://dil2.bosai.go.jp/disaster/2011eq311/sanrikuhistory.html</p>	<p>869年貞観地震からの年表(代表的なものを列挙)。各災害に関連する Web サイトや pdf 形式の論文などを紹介。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------



明治三陸地震津波資料 【青森県海嘯災害畫報 全七枚】
http://dil2.bosai.go.jp/disaster/2011eq311/18960615eq_ezu.html



- 第1図 青森県上北郡三沢村大字三川目 平民富田熊吉妻及長女を背負いて川底に埋められ惨死したるを發掘する図
- 第2図 青森県上北郡三沢村大字三川目 平民熊谷豊久の死体発見の図
- 第3図 青森県上北郡三沢村大字一川目 吉田菊次郎屋敷の惨状の図
- 第4図 青森県上北郡百石村大字一川目 平民吉田スワ、同ヨシ、同ヒテ、同ヲノイ、同大太郎及び同村平民相坂トキの六名、吉田の宅地内に惨死したる図
- 第5図 青森県三戸郡市川村 佐藤市の妻子、家屋の下に惨死したるを發掘する図
- 第6図 青森県三戸郡市川村 ■松之助長男の妻子、惨死の翌日検死済親子三人一棺に納め埋葬せんとする図
- 第7図 青森県三戸郡市川村 木村金吾罹災後潰れ家の屋根に穴を穿ちて仮に住居する図

	<p>チリ地震津波資料 【チリ地震津波調査報告書 - 海岸地形とチリ地震津波 -(国土地理院)】 http://dil2.bosai.go.jp/disaster/2011eq311/pdf/gsi_chileeq1961_all.pdf</p> 	<p>pdf 形式、全文掲載、掲載許可取得済み (国土地理院；承認番号 国地企調第 66 号 平成 23 年 5 月 31 日)</p>
	<p>明治三陸津波資料 【三陸地方地震津波二附キ地質學上ノ考説(巨智部忠承)】 http://dil2.bosai.go.jp/disaster/2011eq311/pdf/18960615kochibe.pdf</p>	<p>pdf 形式、全文掲載、掲載許可取得済み (地学協会；平成 23 年 10 月 20 日)</p>
<p>地震関連情報</p>		
	<p>震災関連新聞一覧 http://dil2.bosai.go.jp/disaster/2011eq311/newspaper_list.html</p> 	<p>震災直後の 2011 年 3 月 11 日から現在まで収集している地方新聞の一覧。 【収集地域】 青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県 また、寄贈された地方新聞や、全国紙の地方版もリストに掲載。</p>
	<p>東北地方太平洋沖地震関連サイト http://dil2.bosai.go.jp/disaster/2011eq311/311link.html</p>	<p>東日本大震災に関連する Web サイトのリンク集</p>